



【イエスキリストのように祈る】

聖書本文:ルカの福音書22章39節-46節・暗唱聖句:エレミヤ書33章3節 説教者:鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

<1. 習慣の大切さ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん、一週間の間もお元気で、主の平安で守られましたか。マルコム・グラッドウェル(Malcolm Gladwell)という人が2009年に、書いたOUTLIERS『アウトライアーズ』(邦題:天才!成功する人々の法則)という本が全米では発売3カ月で100万部を突破した超ベストセラーでした。持つ者はさらに豊かになり、持たざる者は持っているものまで取り上げられる「マタイ効果」とか、特に一番注目されたのは、どんな才能や技量も、一万時間練習を続ければ“本物”になるいわゆる「一万時間の法則(だれでも一日3時間ずつ、10年間努力し続ければ、一つの分野をマスター出来、天才的な本物となれる)」という主張でとても注目され、評価され、今はあらゆる分野でテキストみたいになっています。もちろん色々な違う意見もありますが、ここで大事なものは、天才、あるいはどんな分野で本物、マスター出来る法則ではなく、どんなに天才的な能力や才能があり、お金や良い環境の中にもいるとしても、自分で実際1万時間ほど努力し続け、行い続け、実践し続けなければ、願う通りの成功には出来ないということが大事なポイントだと思います。

日本では、小さい頃まで身についたことが大人になってずっと影響し続けることになると言われる「三つ子の魂百まで」ということわざがあるように、西洋にもこのようなことわざがあります。

「**考えの種を蒔くと行動の実を結び、行動の種を蒔くと習慣の実を結ぶ習慣の種は性格を作り上げ、その性格は運命を決める**」と言われていています。子どもたちの頃から、良い習慣を身につけさせ、もたらせるなら、子ども教育の90%はすでに成功したとも言われているほどではないでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさんには、どんな良い習慣がありますか。そして、クリスチャンとして信仰生活をしながら、みなさんはどんな良い信仰の習慣が身につけられているのでしょうか。例え、クリスチャンになってから、他人の事を良く聞く傾聴する習慣、友達など思いやりを持ってよく顧みて助けて上げる習慣、いつも小さなことに神様に、周りの人々に感謝する習慣、毎週教会の礼拝に参加し、静まり礼拝をささげる習慣、毎日聖書を読む習慣など、我ら自身も含めて、我らの子どもたちにもこれから良い信仰の習慣が身につけられるように家でも、教会でも助けてあげる必要があります。

我らのクリスチャンプレイズチャーチは、新しい23年度の我らがともに目指すスローガンとして、【イエスとともに・イエスのように生きる】(Walk with Jesus & Live like Jesus)だと決めました!今までのどんな年よりも、イエスキリストご自身にフォーカスを合わせ、さらにイエスキリストの人格、品性、その生き方の似姿に変えられて行く一年となるように学び続け、成長し続けて行きたいと願っております。イエスのように生きるために、そして、今もなお生きておられるイエスキリストとともに日々経験し、交わってともに歩むために、イエスキリストがこの地上でおられた時、続けられ身につけておられたことを聖書を通してもう一度謙遜に学びなら、イエスキリストの尊い習慣が、我らの習慣と姿ともなりますように祝福をお祈り申し上げます。そうなれば、きっと日々守られ、強められ、祝福されていくと信じます!

<2. イエス・キリスト祈る習慣>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

なぜ良い習慣が我々に必要で大切でしょうか。良い習慣が人の成熟さと成功の秘訣になるからではないでしょうか。**イエス様は何よりも祈りの習慣を大事にされる祈る生涯を送ったお方でした。**

イエス様の祈る姿はどうでしたか。福音書を読むと、地上に来られたイエス様にとって祈る生活は、ただ単に正しい習慣の模範を示す為のものではなく、日々のイエス様の祈りは、衣食住以上に、欠かせないものでした。一日を始める前に、いつもイエス様は祈りを通して父なる神様との交わりによって力づけられ、聖霊に満たされ、日々のお働きを全うされたことが分かります。いつものように朝早くまだくらしいうちに起きて、いつもの静まった所に行かれ、祈られたイエスキリストの姿(マルコ1:35) i唯一祈る必要の

全くない方がいるとするなら、イエス様ご自身かも知れませんが、イエス様はどんなに疲れていても、忙しくても、いつもまず祈ることから始められたことが分かります。

マルコの福音書1章35節には「さて、イエスは朝早くまだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。」今日の本文39節をご覧ください。「それからイエスは出て行き、いつものようにオリブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。」「いつもの場所に来ると、イエスは彼らに「誘惑に陥らないように祈っていなさい。」と言われた(40節)」

つまり、イエス・キリストはこの地上におられる時、たまにでも、特別な時ではなく、いつものように、いつもの場所で祈りの習慣に従って祈られたお方である意味です。イエスキリストの地上での生涯は祈りの生涯であったと言っても過言ではないでしょう。荒野で40日間断食の祈る時から始められたイエスキリストは、毎日いつものオリブ山で祈られ、最後の十字架につけられた時さえにも“父よ。彼らをお救しください(ルカの福音書23章34節)”と祈られました。

神の御子なるイエス様は唯一祈らなくても大丈夫なお方でしたが、祈られた、それでもたまにではなく、何か問題や悩みがある時ではなく、祈りが習慣になるまで毎日祈りから始められました。それは、結局私達もそうするように、そうなるようにイエスキリストご自身が祈りの模範を見せるためだったのではないのでしょうか。

今日の本文を読んで見ますと、イエス様の前には残酷で耐え難い十字架の死という問題がおいてありました。明日にはあの残酷な十字架にかかる事を知っておられました。近づいて来ている十字架、単なる死の苦しみだけではなく、耐えられなさそうなその十字架の苦しみの問題の前でイエス様は他の人たちを非難されませんでした。弟子たちさえも、彼を裏切ったあのユダさえも責めませんでした。それにイエス様は何の悩みもないふりをする演技もされませんでした。あの苦しみの十字架をイエス様は真っ直ぐに眺めました。その十字架という苦しみの問題をいただいたままいつも祈られたゲッセマネの園でイエス様はひざまずいて祈ることによって問題を直面し、祈りをもって十字架を覆うようになり、祈りによってイエス様は全ての御心を成就された事を私たちも覚えておきたいと願います。

イエス様の切なる祈り

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

イエスキリストはどのように日々祈られたでしょうか。

大きな叫び声と涙をもって祈りと願いを父なる神に日々捧げられたイエスキリストでした。

「イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」(ルカの福音書22章44節)「キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。(ヘブル人への手紙5章7節)」

この地上にいらっしゃったイエス様が祈りの習慣を持って祈られていた姿は必死そのものです。神であるイエスキリストなのに、その方はひざまずいて祈られました(41節)。当時ユダヤ人たちは立ててささげる祈りをしましたが、本当に切迫の時だけ、ひざまずいて祈ってましたが、神の御子はいつもひざまずいて祈っておられました！そしてルカの福音書22章44節をみると、イエス様の弟子だった医者出身のルカはイエス様の祈られている姿をこのように描写しました。「イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」主の祈りの最後の時間、我々も祈る時は、以前よりさらに切実に祈り、祈りにより心から熱心に祈られるクリスチャンプレイズの全信仰の家族となりますように心からお願い申し上げます。

<3. どうしてイエスキリストは祈り続けられ、我らも祈り続くべきなのか。>

①日々生きておられる神との関係と交わるために(実際神体験:御力・神の知恵・神の御助けを頂く為)

「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。(マタイの福音書18章1

9節)」マタイの福音書7章7-8節「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見出します。たたきなさい。そうすれば開かれます。だれでも、求める者は受け、探す者は見出し、たたく者には開かれます。」

「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたが知らない理解を越えた大いなることを、あなたに告げよう。」(エレミヤ書33章3節)

「神は今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ。32 あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。(マタイの福音書6章30・32節)」

「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに主は近くあられます。また主を恐れる者の願いをかなえ、彼らの叫びを聞いて救われます。(詩篇145篇18-19節)」

イギリスの医者出身のロイド・ジョンス牧師は「人はひざまずいて神様と顔をあわせるときこそ、一番偉大になる」と言われました。

私たちが聖書を通して覚えるべきことは、数多くの信仰の人々が偉大な者だったから祈ったわけではなく、祈ったからこそ、大いに神に用いられ、偉大な人生を送られたということです。

祈りの人だと呼ばれるEMバウンズという人はこのように言いました。「信仰生活において祈りを代理することもなし、祈り以上のこともなし。我々の人生は今自分が祈っている以上にはならないのだ。」

②神の御心がすべて成し遂げられ、全うされるなされるために

イエスキリストは地上で絶えず祈りを通して、神の御心が全てご自身の身を通して成し遂げられるように祈り続けられました。

今日の本文42節では「父よ。みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

「それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯を私から過ぎ去らせて下さい。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」(マタイの福音書26章39節)」

ここで主は弟子たちに、そして我々に祈るべき理由(いのりを通して神の御心が全て成し遂げられるため)をもう一度教えて下さいました。

ここでわたしたちは祈りの大切さをもう一度見出すことができます

“祈りというのは神様の約束、ご計画を我々に成就させる通路”であるということです。

神様は私とみなさんのために素晴らしいご計画をもっておられます。一人一人、ご家族、共同体、教会、将来のために、素晴らしい神のご計画と御心をもっておられるのに、どうして神の御心全てがかなえられないでしょうか。その簡単な理由は我々が祈らないためだった事が分かります。私たちが祈り始める時、神様の約束は成就されると信じます。祈りによって神様の祝福はどんどん広がると信じます。祈りというのは神の御心を我々を通して成される方法であることをわすれないでください。ですから、答えられる時まで、とことんまで祈り続けなければなりません。

③自分を守り、誘惑に陥らないようにするために

イエス様は眠っている弟子たちにどうして祈りを中断してはいけないのか、なぜ祈り続けるべきなのかこう教えて下さっています。

今日の本文ルカの福音書22章46節に「そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。」(祈るべき理由:誘惑に陥らないように)

「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」(マタイの福音書26章41節)

結局、眠ってしまい祈らなかった弟子たちの中一番熱心だった弟子ペテロはサタンの誘惑に気づかないうちに、

飲まれ、負けてしまいイエスキリストを3度も呪いながら知らないと否認し、大きな過ちと失敗を招いてしまいました。他の弟子たちもみんなイエスキリストの十字架の前で逃げてしまったのです。

しかし、後でイエス様から言われたお言葉を思い出し、心から悔い改め祈ったペテロは初代教会で祈りの人となり、初代教会中欠かせない存在として、大いに用いられたことが分かります。

神様は使徒ペテロが一瞬勇断し、自慢していた自身の大きな失敗を通して、初代教会の人々や今日我らにまでこのように証しとして語らせ残させ、我らも油断しないように、こう注意し、警戒するように次の御言葉を我々に与えて下さいました。

新約聖書の中ペテロ第一手紙4章12節でも「**愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審(ふしん)に思っ**てはいけません。」そしてペテロの手紙第一5章8節「**身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています。**」と教えました。ペテロ自身は燃えさかる火のような試練を味わいました。彼は同じようにクリスチャンにも人生の中火のような試練はいつもありえるという事実を示してくれているのです。我々がそのような試みに陥らないような体制と勝利のために、人生の老年結論的にこう語っています。ペテロの手紙第一4章7節に「**万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え、身を慎みなさい。**」

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！私たちはいつ火のような試練に会うかわかりません。しかし、今でも、いつでもこの試練を乗り越える準備はできているでしょうか。今年もサタンはかならずみなさんの弱いところにほえたける獅子のように試みて来る事を忘れないで下さい。ですから、イエスさまは主の祈りを教えながら「**私達を試みに会わせないで、悪からお救いください。**」と祈るようにおっしゃっています。

23年度中にも思わぬ様々な戦い、誘惑や試みの多いこの世で、自分や家族や教会ために、最近どれだけ祈っているのでしょうか。我々は忙しいから、疲れているから祈り続けられないとよく言い訳をしていますが、イエスキリストの地上での生涯を覚えると、イエス様はだれより、お働きと忙しさの連続でした。しかし、ひたすら、祈りを通して全てを実現させて下さいました。公にお働きを始める時には、荒野で40日間断食の祈りから始まりました。弟子たちを選択する前にも夜中まで祈られました。そして今日の本文の十字架の最大な苦しみの前でも、そして十字架の上での最後の時でもイエス様はひたすら祈られました。まるで、徹底的に、祈らなければならないものかのように続けられ、身につけられました。今日我々も祈りの習慣も含めこれからも新しい良い習慣を作り、身に付けていくためには続ける訓練をしなければならないのです。訓練というのはつまり、諦めないで、持続的に、続けてやる事によって出来ると今日の本文は教えて下さっています。

聖書に「**たえず祈りなさい(1テサロニケ5:16-18)**」と神様が私たちに命じられた理由は私たちが日々祈りを通じて神様と交わりながら生きるべき存在であるからです。どんなに大量の作業ができる機械であっても**エンジンが動かなければ、その機械はただの鉄にすぎないことと同じようにクリスチャンにとっても一緒です。**我々から祈りを除いてしまうと信仰の正しい生活の機能も止まってしまいます。私達クリスチャンにとって祈りというのは、機械のエンジンのように私達の全領域に神の力を頂いて動かせるエネルギーであり、パワーであるのです。昔も、今も、これからも恵みと力に満ちておられる父なる神様は、神を信じ、祈る全ての者たちに、ご自身に全ての栄華と富、御力と救いを惜しまずにお与えようとしておられるお方です。**日々、とことんまで祈りましょう！**

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさんは今祈りへの飢え渴きを覚えていませんか。祈る必要がまったくない方がいらっしやいますか。自分に祈る事が必要な時であるのを感じていますか。実は祈らなくても良い人生は神の前でだれもいません。だから主は常に祈りなさいと命じながら、祈るよう主の祈りまで教えて下さったのではないのでしょうか。我々もイエス様のように祈る者となり、祈る姿さえもイエスキリストに似ていくクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！